

# 100周年にむけて

## 新体制がスタート

### 理事長と病院長に聞く。

大阪の中核病院として最先端の地域医療を担つてきた公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院(大阪市北区)。1925年、大阪の綿業界で活躍された実業家、田附政次郎氏による寄付金をもとに京都帝国大学(現京都大学)医学部に医学研究所が設立、1928年には臨床医学研究のために北野病院が大阪の地に置かれ、まもなく100周年を迎えます。

先進医療はもとより医療の安全、医療の質、地域医療連携などでも常に日本の医療をリードし、地域住民からも厚い信頼が寄せられています。2022年10月からは、理事長に稻垣暢也氏、病院長に秦大資氏が就任し、新しい体制での病院運営が進められています。高度な医学の研究とともに急性期医療を提供する基幹病院としてどのような医療の未来を目指しているのか。そのリーダーシップとガバナンスを担うお二人にお聞きしました。

公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院

稻垣暢也理事長

## 病院の原点に回帰し、医療の未来を切り拓く

稻垣新理事長は、長年にわたって糖尿病研究をリードしてこられ、京都大学医学部附属病院病院長、同先端医療研究開発機構(i-ACT)機構長などを歴任されています。基礎医学の研究や臨床経験も豊富で、北野病院100周年に向けて最新で最も最善の先進医療を提供したいと抱負を語つておられます。



北野病院新館外観写真(医学研究所)

### 理事長就任にあたつての思いを。

北野病院の成り立ちは、大阪の実業家だつた田附政次郎氏が京大病院で胸の治療を受けた病をいやされたことに始まります。そのことに感謝された田附さんが学術や医療に役立ててくださいと多額の寄付をされ、京都帝国大学内に田附興風会医学研究所がつくられました。さらに「大阪市民に最新医学の恩恵を与えた」との希望で、研究所に付設する病院が大阪に設置され、それが北野病院です。

つまり医学研究所北野病院は、京大医学部の附属病院に近い位置づけでした。これまで北野病院の理事長は京大の医学部長が非常勤で務めてこられましたが、いまや医療や病院経営は多岐にわたつて複雑化しています。

——どうして医師の道を選ばれたのですか。  
お生まれはどちらですか。  
大阪市内で生まれたのですが、3カ月で兵庫県芦屋市に移り、4歳からは西宮市で過ごしました。高校生活は、当時、甲子園球場近くにあった甲陽学院で過ごしました。



小学1年生の時、母がかなり進んだ乳がんと診断され、大きな衝撃を受けたのを覚えていました。県立西宮病院で摘出手術を受けたの

ですが、術後約10年余、いつも再発を心配していました。銀行員だった父の背中を見て、会社の事情に左右されるサラリーマンの人生よりも、手に技術をもつ職がいいと思っていましたね。生き物や人の体の仕組みに興味がありましたが。

——京大医学部ではどのような青春を。

ハンドボール部に入り、雑誌の編集にもかかわりました。京大医学部同窓会の機関誌「芝蘭会報」の編集で、京大出身のおもしろい研究をしていて人を訪ねて回りました。楽しかったですね。当時、神戸大学におられ、後に文化勳章も受賞された西塚泰美教授(にしづか・やすとみ、生化学)を訪ね、タンパク質リン酸化酵素であるプロテインキナーゼCを発見された話を聞きして、興奮したことが強く印象に残っています。新たな細胞内の情報伝達系が解明され、がん化をはじめとする様々な生命の仕組みを明らかにした研究でした。

——糖尿病・内分泌の研究を選ばれたのは。

学部6年のとき、第2内科助手で、後に糖尿病・栄養内科学初代教授になられた清野裕先生に強く勧められたからです。白血病や神経

の疾患難病にも関心があり、色々と悩んだ記憶していますが、最後は人との出会いで決まりました。いまでは糖尿病有病者が1000万人を超えたといわれていますが、そのころは100万人前後で、いまほど糖尿病への関心が高くなありませんでした。代謝疾患である糖尿病には未解明のおもしろさがあり、最先端の研究ができました。この道に進んでよかったです。

——北野病院でも研修されましたね。

ハンドボール部に入り、雑誌の編集にもかかわりました。京大医学部同窓会の機関誌「芝蘭会報」の編集で、京大出身のおもしろい研究をしていて人を訪ねて回りました。楽しかったですね。当時、神戸大学におられ、後に文化勳章も受賞された西塚泰美教授(にしづか・やすとみ、生化学)を訪ね、タンパク質リン酸化酵素であるプロテインキナーゼCを発見された話を聞きして、興奮したことが強く印象に残っています。新たな細胞内の情報伝達系が解明され、がん化をはじめとする様々な生命の仕組みを明らかにした研究でした。

——糖尿病・内分泌の研究を選ばれたのは。

分子生物学分野がおもしろくなり、第2内科の井村裕夫(内分泌代謝学)教授や清野裕先生のところで研究しました。井村先生が突然、京都大学総長になられたので、私は井村内科の最後の学位取得者です。その後、清野先生の

弟、清野進先生がアメリカから帰国して千葉大教授として教室を立ちあげられ、そこに私も参加してとても刺激的な研究生活を始める

ことができました。スルホニル尿素薬(SU)という、すい臓からのインスリンの分泌を増やし血糖を下げる飲み薬の研究が認められ、その後、秋田大学の教授に着任しました。

千葉大、秋田大と、13年ほど基礎研究に没頭しました。でも、私はやはり「臨床好き」な医学者です。研究生活への充実感を感じながら、同時に臨床への欲求をかかえて過ごしていましたね。

——再び、京大病院で臨床の現場に。

学部を卒業して2年目は内科研修医として、3年目からは内科医員として勤務しました。胃カメラや腹部超音波検査などなんでもやりましたよ。粟粒(ぞくりゅう)結核のため心肺停止状態で運ばれた患者さんが1カ月後に意識を回復されたことは忘れない経験でした。医療はここまでのがやれるのだ、と感動しましたね。昼夜にわたって働きましたが、医師としての私の原点はここでつくられたと思っています。

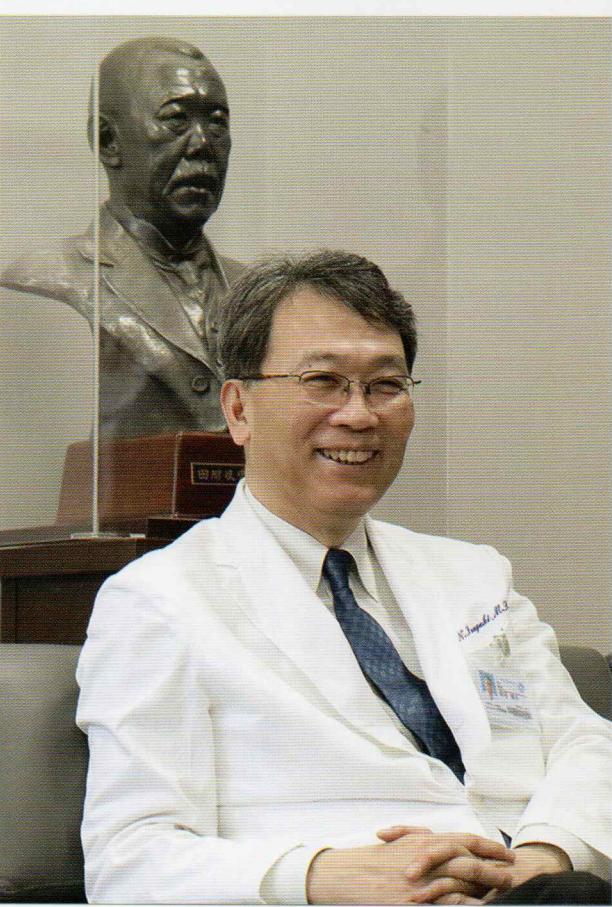
——再び、京大病院で臨床の現場に。

2005年、清野裕先生の後任として京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学(当時)教授に就任しました。臨床の現場にもどる

臨床の現場では患者さんの声をリアルに聞き、いつも「患者さん目線に立つ」ことをこころがけてきました。外来を担当し、回診をし、基礎研究もするという生活は私にとって理想的で、とても充実した時代を過ごすことができました。

私の学位の研究はインクレチンに関するものでしたが、その頃はインクレチンがこれほど糖尿病治療薬として活躍するとは思いもしませんでした。糖尿病分野に身を投じ、臨床や基礎研究に関する発展を身をもって体験できました。

ホルモンで、すい臓の細胞を刺激してインスリンの分泌を増加させる働きをもちます。清野裕先生や弟の清野進先生の研究によって糖尿病におけるインクレチンの役割が明らかになりました。



き、医師冥利だと思つています。

——これから糖尿病については。

良い薬剤がいくつも生まれ、治療法も年々充実し、この疾患との闘いには比較的明るい

未来がひらけています。  
しかししながら、糖尿病がなぜ発症するかといったメカニズムの全容は、いまだに解明されていません。私たち医師には、まだまだ多くの課題と追求すべき目標が残っています。

糖尿病という病名に「尿」という負のイメージがあることから「高血糖症」などへの名称変更の動きがあります。しかし、なかなか良い言葉がありません。今後の課題として予防の増進が重視されています。私も患者さんを減らすための啓発活動にも取り組んでいきたいですね。



ICUナースステーション

### 北野病院の未来に向けて。

に創立100周年を迎えます。これからも最新で最良・最善の先進医療を患者さんのものにお届けしていきたい。

### 若手医師へのメッセージを。

いま、私がもつともやり甲斐を感じるのは、

### 稻垣 幹也(いながき のぶや)理事長 略歴

1958年7月	大阪市生まれ
1984年3月	京都大学医学部卒業
1984年6月	京都大学医学部附属病院 内科研修医
1985年6月	田附興風会医学研究所北野病院内科研修医、内科医員
1987年4月	京都大学大学院医学研究科博士課程(内科系)入学
1992年3月	千葉大学医学部助手、講師、助教授
1997年9月	秋田大学医学部生理学第一講座教授
2005年4月	京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学教授 (2013年9月より糖尿病・内分泌・栄養内科学に改称)
2015年4月	京都大学医学部附属病院院長 併任(2019年3月まで)
2021年4月	京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT)機構長 併任
2022年10月	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 理事長 現在に至る

日本内科学会副理事長、日本糖尿病学会常務理事、京都府糖尿病協会会长など。

若手を育てることです。若い人たちの成長を見守りながら、私もいつしょに成長していくたいと思っています。私が彼らに向けて発している言葉は、「とにかく、チャレンジしない」です。臨床でも研究でも、「不可能なことは何もない」という心つもりで、勇気を持つてチャレンジし続けてほしい。そして北野病院で働いたことを次に生かしてほしいですね。そのためにも最大の支援をしていきたい。

# 大阪市民に最新医学の恩恵を

秦病院長は北野病院で20年余、小児科部長として、さらに副院長として急性期総合病院として高度で先進医療を提供するために力を注いでこられました。患者さんの数が飛躍的に増え、機能性や快適性の面を充実させるために、病院内の施設の整備やリノベーション、地域連携などにも意欲的に取り組んでおられます。

公益財団法人田附興風会

医学研究所北野病院

秦大資病院長



## 病院長就任にあたっての思いを。

2002年に北野病院小児科部長として赴任以来、小児科各専門領域において最先端の医療を提供することを心がけてきました。また、24時間365日夜間小児救急患者さんのはほぼ全例受け入れを実現し、「断らない医療」に努めています。2013年の副院長就任

後は、成人領域においても救急患者さんのほぼ全例受け入れを中核病院の責務と考え、病院をあげて取り組んでいます。現在、高度で先進的な医療を提供できる地域中核病院として病院内のリニューアルや医療体制の充実に取り組んでいます。

——まず医師としての歩みから。お生まれはどちらですか。

——小児科を選んだのは。

——京大時代はどうなことを。

稻垣理事長とは同級生なんです。稻垣先生は当時、医学関係の雑誌の編集をしていてとてもまじめな学生だったという印象があります。私は野球部に入つてスポーツに没頭し、ハイク仲間と富士山に行つたりしていました。

稻垣先生に講義ノートを借りて、単位を取得

——その後、研究者として京大

学部を卒業して2年目、静岡県立総合病院の小児科に赴任しました。病床が1000床近くある大病院で小児科は医師4、5人体制でしたが、その部長先生に「英語の論文を書きなさい」と強く勧められました。論文を書くコツをつかめば、その意義がよくわかりました。審査で厳しい指摘をうけ、それがその後抜けのない緻密な臨床力に繋がっていくと感じました。ビフィズス菌によって膿膜炎が生じた症例を世界で初めて報告できました。

——医師として転機になったことは。

学部を卒業して2年目、静岡県立総合病院の小児科に赴任しました。病床が1000床近くある大病院で小児科は医師4、5人体制でしたが、その部長先生に「英語の論文を書きなさい」と強く勧められました。論文を書くコツをつかめば、その意義がよくわかりました。審査で厳しい指摘をうけ、それがその後抜けのない緻密な臨床力に繋がっていくと感じました。ビフィズス菌によって膿膜炎が生じた症例を世界で初めて報告できました。

——海外留学は。

京大助手を休職して米国カリリフォルニア州サンディエゴにあるラフオーヤ免疫アレルギー研究所に留学しました。2年間、アレル



化器系とか循環器系という専門領域に入つていくよりも、より広く医療を考えてみたかったのです。初期研修(当時)1年目の冬、郡立高島病院(現・滋賀県高島市民病院)に「一人医長」として2ヶ月間、派遣されました。雪深いところにある病院の外来に100人近い小児患者さんが来院し、一人で対応しなくてはなりませんでした。当直もあり、交通事故などの緊急時、外科医がかけつけるまで傷を縫合するなどい勉強になりました。

静岡県立総合病院勤務時に「肺炎マイコプラズマ」の診断におけるDNAプローブの有用性についての臨床研究に携わり、それがきっかけとなり、遺伝子を扱う技術をまずみつけたいと思い、大学院に進みました。その大学院時代に日本海に近い弥栄病院(現・京丹後市立弥栄病院)や舞鶴市民病院にも勤務しました。小さな病院に勤務し、いろんな患者さんを都会の大病院に送り出すときの気遣いや苦労も体験しました。

中の子どもは幼稚園を2カ所、小学校も5カ所変わりました。おかげでアメリカでも子どもたちはすぐに地域に慣れ、仲良くなった友達を自宅に連れてきました。私自身、子どもたちに支えられたことも多かったです。

#### ——北野病院に赴任して。

北野病院は専門性の高いスタッフが多く、また、大学や大病

院の勤務経験しかない医師も多い病院です。地方の小さな病院

でさまざまな体験を重ね、大病

院に患者さんの医療をお願いす

るとき、いかにも「こつちは大病

院です」といくぶん横柄な態度

を目にするものがありました。

大病院についてはわからないこと

もあることをしっかりと自覚し

ておきたいですね。若い医師が、自分なりに3年か4年で学ぶ場

デイ・サージャリー室



ギーに関与する肥満細胞のヒスタミン放出やサイトカイン産生に至る細胞内シグナル伝達について研究しました。

その後、日本に戻つて岸和田市民病院に勤めることになりますが、北野病院に赴任するまでの20年間に7つの病院で働きました。転勤が多く、私には子どもが3人いますが、真ん

#### ——地域連携にも力を注がれています。

思っています。支援していきたいと

——デジタル技術の活用にも積極的ですね。

患者さんの入退院をめぐって地域の病院間の連携をとるシステムを整備し、チャットを使つてすばやく連絡を取れるようになりました。病院内の診療開始時間について患者さんのスマホにLINEを使ってお知らせする仕組みも検討しています。

北野病院は急性期医療の総合病院です。高度な医療を必要とする患者さんをご紹介いただいたり、急性期を脱した患者さんを地域の

先生のもとにお返ししたりするうえで「地域連携」は欠かせません。患者さんを地域のかかることができます。小児科でも産院に超音波工

作の画像を送つてもらい、治療、処置を相談できます。コロナ禍で入院患者との面会が制限せざるを得なくなつたときがありました

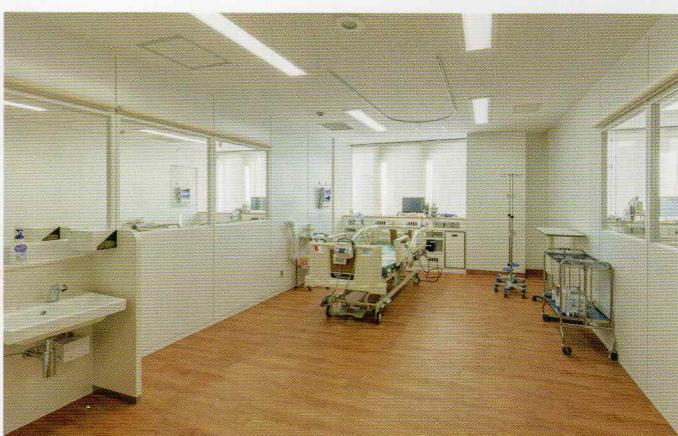
が、子どもさんの様子をタブレット端末で見られるような対応をしました。

——病院の整備状況は。

本館が建つて20年あまりが経過しました。患者さんの数が飛躍的に増え、機能性や快適性の面を充実させるための整備を進めています。これまで集中治療室（ICU）の拡充、日帰

3年という長期にわたつてコロナに対応するなかで、その接し方もだんだん慣れてきました。ただ2022年夏、第7波の際は、コロナ患者のための病棟の確保で大変でした。一

時、職員約90人が出勤できず、約600床のうち400床しか使えない状態になりました。救急外来もしばらく閉鎖せざるを得ず、地域の方々や医療機関の先生方に大変ご迷惑をおかけしてしまいました。



ICU個室

医師の場合も、当直医が在宅の専門医にCT画像などをオンラインで送り、指示を得ることができます。小児科でも産院に超音波工

作の画像を送つてもらい、治療、処置を相談できます。コロナ禍で入院患者との面会が制限せざるを得なくなつたときがありました

が、子どもさんの様子をタブレット端末で見られるような対応をしました。



公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院

1925年、東洋紡や日清紡ホールディングスの設立に関与するなど綿業界で活躍された大阪の実業家、田附政次郎氏による寄付金をもとに京都帝国大学(現京都大学)医学部に医学研究所が設立。1928年、臨床医学研究のために北野病院が大阪の地に置かれた。

一般病床:685床。 〒530-8480 大阪市北区扇町2-4-20

り手術室の新設、地域医療サービスセンター、入退院サポートステーション、採血ブースなど拡充等の本館のリノベーションを実施しました。最新の検査機器を導入したハイブリット手術室も2023年夏頃には全面完成する予定です。

## 100周年にむけての思いは。

「大阪市民に最新医学の恩恵を与えるたい」という病院創立に寄与していただいた田附さんのお言葉を、みんなであらためてかみしめたい

と思います。100周年は、病院の歴史を振り返るいい機会です。最良で最善の医療を提供するためにも職場環境をもっと良くしたいと考えています。チームワークのいい自由な雰囲気の職場からは自由な意見がスタッフからどんどん出て、それが新しい工夫や改善に繋がり、さらに職場環境が良くなるという好循環が生まれます。職員が仕事にやりがいを持つて、のびのびと働き、患者さんに愛される病院にしていきたいと思っています。

ここは研究所所属の病院です。臨床に力を注ぐのはもちろんのこと、より多くの人の医療のために貢献する研究も大事です。高度な先進医療を担えるように多くの人の期待に応えていきたいと思っています。

### 秦大資(はただいすけ)病院長 略歴

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| 1959年10月 | 大阪市生まれ                    |
| 1978年2月  | 東大寺学園高等学校卒業               |
| 1984年3月  | 京都大学医学部卒業                 |
| 1984年6月  | 京都大学医学部付属病院研修医(小児科)勤務     |
| 1985年2月  | 都立高島病院(小児科)勤務             |
| 1985年4月  | 京都大学医学部付属病院研修医(小児科)勤務     |
| 1985年6月  | 静岡県立総合病院(小児科)勤務           |
| 1989年4月  | 京都大学大学院医学研究科博士課程(内科系専攻)入学 |
| 1993年4月  | 市立舞鶴市民病院(小児科)勤務           |
| 1994年11月 | 京都大学医学部付属病院小児科助手          |
| 1995年6月  | 米国ラフォーヤ免疫アレルギー研究所         |
| 1997年9月  | 市立岸和田市民病院(小児科)勤務          |
| 2002年5月  | 田附興風会医学研究所北野病院(小児科部長)勤務   |
| 2013年4月  | 同上 副院長                    |
| 2022年10月 | 同上 病院長。現在に至る              |

日本アレルギー学会評議員、日本小児科学会代議員、日本小児科学会指導医などを歴任。